

もんぜんろくちょう

タイトルの3つの色は、鬼すべの際の警固・鬼係・燻手の法被の色をイメージしたものです。

「小鳥居小路」魅力づくりの方向性

1. 小鳥居小路の魅力づくり

小鳥居小路の魅力づくりは、平成 26 年（2014）から始め、通りの住民の皆さまに意見をいただきながら道路・水路の景観整備に取り組んできました。今では、小鳥居小路にある歴史的建築物の保存修理からカフェとしての活用、通りの方々による小鳥居小路マーケットの開催など、通りの活性化へむけて施設整備から人々の活動まで一体となって進んできています。

昨年度から筑紫女学園大学の皆さんとの協働もはじまり、学生さんならではの「新しい価値観」の刺激を受け、次の段階へと魅力づくりは進みつつあります。

改めて、小鳥居小路の魅力について、平成 26 年度のワークショップでの成果をみると、概ね下表の 4 項目でした。

【小鳥居小路の魅力】

- ① 「小鳥居小路」の名称
- ② 住民が集える場所が存在する
- ③ 歴史的建造物が残っている
- ④ 歴史がある年中行事、祭事が続いている

今年度の WS の作業については、前述の魅力をさらに向上するにはどんな方法が必要となるかを議論しています。

数回行った WS で皆さんから出された項目は、総合すると次の 2 つの項目に整理できるかと思えます。

【小鳥居小路の魅力づくり】（第 2 弾）

- ① 昼夜を問わず多世代で多様な人々が集える空間
- ② 地域伝統を継承する

① 昼夜を問わず多世代で多様な人々が集える空間
小鳥居小路の他所にない特徴は、住空間の中に来訪者が入り込む場であり、かつては太宰府の役場があり

「宰府銀座」と言われた通りで、住民が集い、買い物する場であった名残が今に引き継がれています。一方、参道は、太宰府天満宮参詣者が通る場であり、住空間というよりは来訪者が多い観光優先の通りだと言えます。

個性のない街は、個性のある街に人々を奪われ、どのような姿になっているかは、衆目の知るところです。小鳥居小路の良さ、個性は、住民と来訪者が出逢う空間であり、この点を理解した上で通りの魅力を伸ばしていくことが必要ではないかと思えます。

例えば、時間に捉われず大人も子供も自由に入りができ、ご近所との世間話や諸外国の来訪者との交流もできる空間の創出ができれば、多様な世代間の融合も可能となります。

② 地域伝統を継承する

どこの地域にも、様々な祭事が執り行われ、人々のつながりを確認する場として生き続けています。

小鳥居小路の方々は、太宰府天満宮の伝統行事「鷲替え」「鬼すべ」「神幸式」を支えるとともに、地域独自の「恵比須神」祭りは現在も受け継がれて毎年 12 月 2 日と 3 日の両日行われています。天満宮周辺には数多くの「恵比須神」が祀られており、その 7 か所をお参りして家内安全・無病息災を願う「7 所まいり（ななとこまいり）」が行われています。恵比須神の像は、市内に多数お祀りされていますが、地域の住民が行事としてお祀りするところはだんだん少なくなってきました。また、明治 35 年（1902）の太宰府天満宮千年大祭の折、起こされたとされる「梅上げ」は、催行する



方々が毎年異なりますが、百年以上も継続され太宰府市民遺産第 10 号「太宰府の梅上げ行事」として認定され、毎年 3 月の行事の折は、通りに祝接待場が設けられ、行事の

雰囲気を感じてきています。

昨年度から筑紫女学園大学も、小鳥居小路のまちづくりに参画していただき、これら歴史的な行事の聞き取りを展開し、小鳥居小路の魅力を新たな視点で掘り起こしてくれています。これら聞き取りから、過去に行われていた行事などを掘り起こし、復活させたり、伝統を踏まえた新しい文化を創造することも良いでしょう。

2.地域の個性を活かしたまちづくり

昭和40年代まで「宰府銀座」と呼ばれ、多くの人々が小鳥居小路に集まったのも、たくさんの商店があったからだと思います。しかし現在は、高齢化により廃業された店舗も多く、「シャッター通り」化した通りになってきました。他所の地域では、如何に地域に人を呼び込むかが第一のハードルと言われていますが、小鳥居小路は、すぐ横の参道に一千万人近くの参拝客が天満宮を訪れており、まちづくりの第一のハードルを越えるためにとりたてて取り組む必要がありません。この参拝客を誘客する方策を如何に生み出すのかが課題と言えます。

ここ数年、小鳥居小路にも新しい店舗が開店しています。それぞれ個性を持った素晴らしい店舗ですが、多くの参拝客を誘客するには、さらなる個性が求められます。

一つの方策として「イベント」がありますが、ひと口に「イベント」と言っても、多種多様なものが思い浮かびます。

人々を引きつけるものは、「新陳代謝」が常態化した場に、新たなモノを求めて人々は集います。一方で、偽物に集まらないのも傾向として観察できます。本物を舞台として、そこで新しい価値観を取り入れた取組が求められていると感じられます。小鳥居小路には、本物を冠する舞台は既にあります。これからは、歴史と伝統を使った、新たな価値観の抽入が求められていくでしょう。

そういった観点でみると、既に、通りの方々と、大学生がそれぞれ下記の取組を展開しています。

●小鳥居小路での取組み

- ・歴史的風致形成建造物の活用
筑紫女学園大学の取組み（アンテナショップ、欧米人観光客との伝統文化交流会）
店舗活用
貸ギャラリー
「絵本の読み聞かせ会」（徳永玲子氏）
「クリスマス・イター・コンサート」（フィルハーモニー）
- ・「ほっこり太宰府倶楽部」
四季の催し

- ・「小鳥居小路マーケット」
毎月第4水曜日に開催
- ・笑梅の会
落語会（第20回）
- ・小鳥居笑路寄席
- ・古都の光

下：有岡家土蔵の貸ギャラリー風景
右：ほっこりださいふチラシ



下：小鳥居小路マーケットの様子
右：歴史的風致形成建造物活用時のチラシ



3.これから

小鳥居小路では、伝統的価値観と新しい価値観の融合が始まっています。まさに「温故知新」を通りに関係する方々が実践されている姿を見ることができます。平成31年1月には、宰府の古民家を活用した事業を福岡の企業体が展開する報道がなされました。コトは、単独ではうまくいきません。多くの叡智が結集するとともに、自らが「できる」ことを、無理しない範囲でやることで、少しずつ動き出すものだと思います。無理・無駄は社会にとってあまりいいことではありません。非日常を見せる場が参道ならば、宰府の「日常」を見せる場が小鳥居小路でいいのかもしれない。その「日常」もどこにでもある「日常」ではなく、歴史と伝統をまとった「日常」であることが、どこにもない「小鳥居小路」を体現してくれるのではないのでしょうか。

【お詫びと訂正】
「もんぜんろくちょう」お知らせ10において、中島さんのお名前を「中島征俊」と誤記してしまいました。正しくは、「中島政俊」さんです。ここにお詫びして訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

もんぜんろくちょう お知らせ11
編集・発行 太宰府天満宮門前六町まちづくり協議会
【事務局 太宰府市都市整備部都市計画課 景観・歴史のまち推進係】
発行日 平成31年 3月28日